



ランブリングタウン

鈴木 真理 (すずき まり)

東京電機大学 工学部 建築学科



ランブリングは特に目的もなく散歩などをすること。つまり、ぶらぶら歩きをすることである。地域の人々にとって重要な拠点となっている場所に個性的で心地よい道筋があれば、普段ぶらぶら歩きをしない人でも、歩いてくれるのではないかと思う。

この地域の拠点となっている「洗足池」や「東京工業大学」を、緑道や要素によってつなげるために、大学のサテライトや洗足池の自然や歴史的なものを展示する展示空間を、この洗足池周辺に計画した。ここは、緑がとてもきれいなところで一年を通して自然を感じられる場所であるから、建物によって自然がさえぎられないようにした。また、デッキなどで道を作り人を池に引き込むような要素を設け周辺を計画した。



【講評】 この作品は、歴史的価値のある「洗足池」周辺を、「大学」という地域社会を豊かにする知的インフラにより繋ぎ、自然に人を回遊・滞留させて街を活性化

させるランドスケープ的要素も含む実に広範囲な計画である。建物は水辺の自然環境に溶け込むスケルトンデザインとし、高低差や人の目線をも巧みに自然の中に引き込まれるように計画され、大変センスの良い作品に仕上がっている。特に模型の完成度の高さ、美しさは目を引いた。街や環境・地域の要素を考えた良い作品だと私は評価したい。

しかし、ハードの提案に比べて「ランブリングタウン」という重要なテーマ自体が薄く感じられ、計画全体が弱い印象を受けてしまった事が残念だ。洗足池には日蓮が手足を洗った話など、数多くの歴史的な言い伝えも存在する。そのソフト要素を「場」と重ね合わせるなど、ストーリー性を持たせて計画全体を強く結びつける提案があつたらもっと良かったのではないかと思う。今後、更なる飛躍を期待したい！

(審査員：石毛 満)